

第3章 宇都宮市が目指す都市交通の将来像

3.1 目指すべき方向

- ①効率的な都市への体質改善

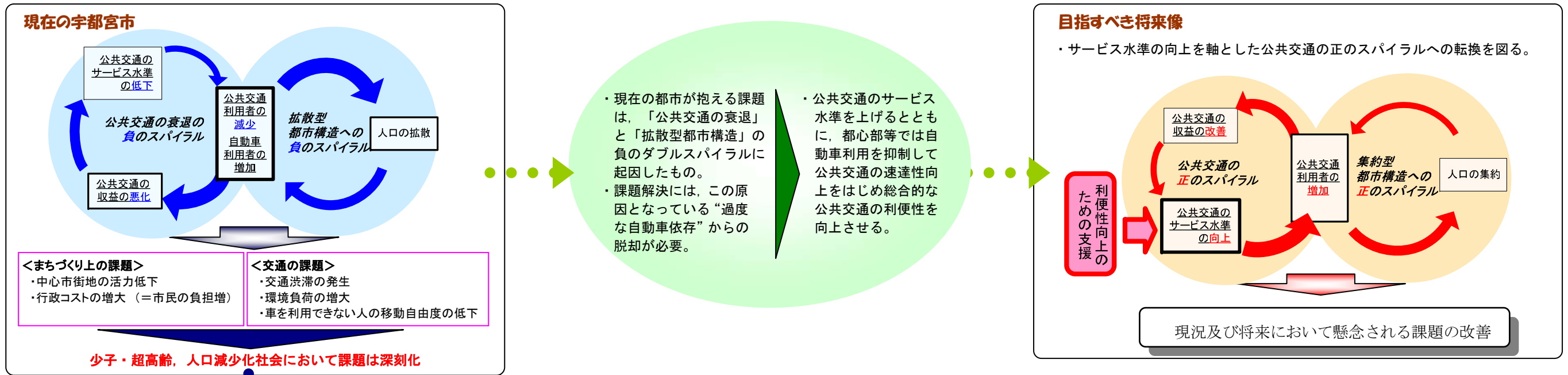
人口減少・高齢社会を見通して、効率的で環境に配慮した持続可能な都市構造を構築していくことが必要です。
このためには、地域特性に応じて自動車(道路)と公共交通のバランスを見直して、過度な自動車利用を是正していくことが必要です。
- ②活力を維持するために必要なまちの魅力向上

宇都宮市が活力を維持する上で、工業団地などの良好な生産環境の整備や、魅力ある中心市街地の創出を図っていくためには、交通渋滞の解消やまちなかの回遊性の改善など、交通の円滑化や利便性の向上が必要です。
- ③将来的に持続可能な公共交通ネットワークの確立

従来の赤字補填的な公共交通に対する支援のみならず、鉄道やバスの連携強化など利用者の視点に立った利用しやすい総合的な公共交通ネットワークの整備や効率的な運行への支援などを行うことにより、持続可能な公共交通ネットワークの確立を促していくことが必要です。
- ④利用者・事業者・行政機関が連携した取り組み

持続可能な公共交通の確立には、一つ一つの公共交通手段の利便性向上はもちろんのこと、公共交通の相互連携による利便性向上が必要です。
過度な自動車依存からの脱却には、利用者の協力が必要不可欠であり、利用者、事業者、行政機関が総力を結集して取り組んでいくことが必要です。

公共交通の衰退と都市構造の関係（進むべき方向の考え方）



超勢型の将来像

- 今までのように自動車利用者の需要に追随した道路整備を優先的に進めた場合。

①自動車社会のさらなる進展

- 交通渋滞が改善しない。
- 公共交通のサービス水準が低下するとともに公共交通不便地域が拡大する。
- 環境負荷の増大により地球温暖化が進む。

②郊外化のさらなる進展

- 中心市街地などの活力が更に低下する。
- 社会インフラ（道路、ライフラインなど）維持費用が増加し、必然的に一人当たりの行政コスト負担額が増加する。

③高齢者等のモビリティ確保の課題が深刻化

- 車を利用できない人の移動自由度が低下する。

宇都宮市は、既存のストックを活用した持続性が高い都市となるためにネットワーク型コンパクトシティを目標とする都市像としており、そのために、公共交通の正のスパイラルへの転換による都市の集約を目指して、公共交通を中心とした交通ネットワークを構築します。

公共交通ネットワークの構築にあたっては、交通事業者や市民と連携して、都市の集約、交通事業の持続性の向上、市民が身近に感じる公共交通の実現を同時に達成するために、市街化区域内の公共交通不便地域の解消及び市域の公共交通空白地域の改善を目指します。

宇都宮市は、公共交通を重要な都市基盤と位置づけて、ネットワーク型コンパクトシティの実現に有効な施策を積極的に実施・支援していきます。

<宇都宮市の公共交通サービスに関する定義>

公共交通空白地域：鉄道駅から半径1,500m、バス停から半径250m以遠の区域
公共交通不便地域：公共交通空白地域ではないがオフピークの公共交通の運行本数が2本/時未満の公共交通の利用が不便な地域

※参考資料-1~6 参照

3. 2 宇都宮市都市・地域交通戦略の基本理念

これまで宇都宮市は、自動車中心のまちとして都市が形成されてきましたが、これからの少子・高齢社会の進行や地球環境問題に対応するためには、過度に自動車に依存した都市構造から脱却し、持続性が高い「まちづくり」を進めていく必要があります。

このため、宇都宮市は、その基盤となる交通体系の構築に当たって、関係者相互の連携のもと、以下の3つの理念により進めていきます。

理念1：都市機能の集約と円滑なモビリティの確保により、 ネットワーク型コンパクトシティを実現

- 都市機能を各種拠点に集約し、それぞれの地域特性や役割分担等を踏まえながら、高齢社会や環境問題に対応した、魅力あるまちづくりを推進していきます。
- それぞれの拠点においては、そこに住まう人々や訪れる人々が安全・快適に移動し活動するための基盤となる公共交通などを、地域特性に応じて戦略的に整備していきます。
- そのほかの地域においては、その集積や土地利用の状況に応じて公共交通と道路をバランスよく整備していきます。

理念2：利便性・明示性・効率性の高い、持続可能な 交通ネットワークの整備を推進

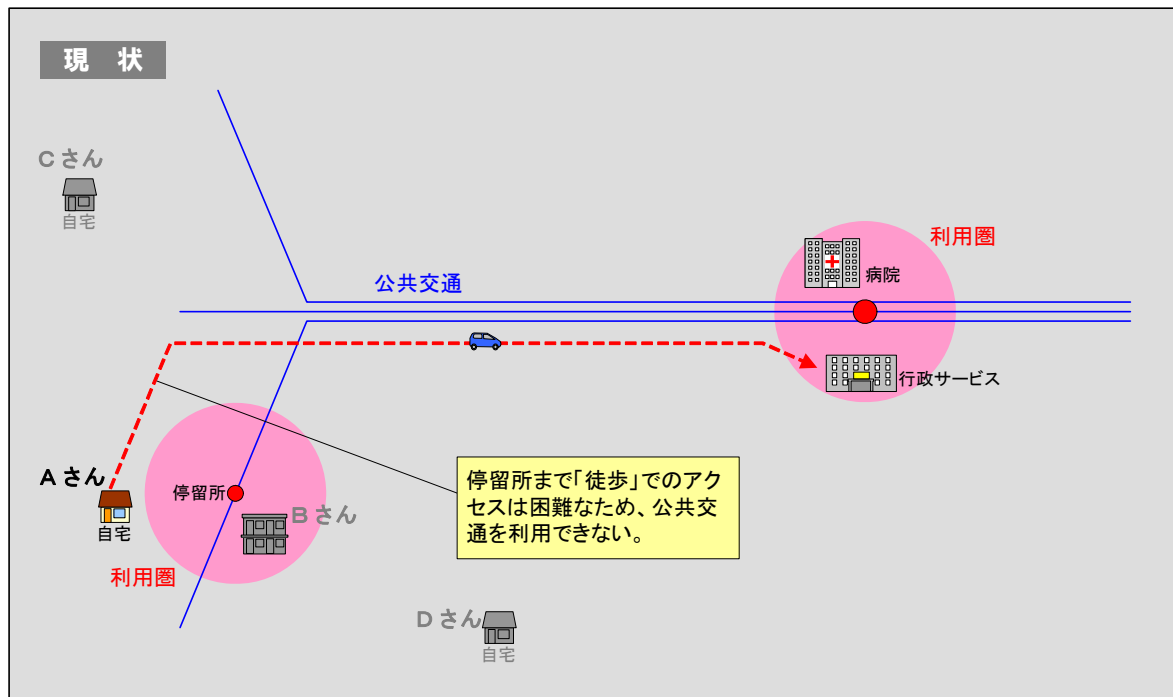
- 徒歩や自転車、自動車、公共交通など各種交通が相互に連携した、安全で利便性の高い交通ネットワークの整備を推進します。
- バスや鉄道等、公共交通については、相互の連携を密にしながら、利用者の視点に立った分かりやすく使いやすい公共交通ネットワークの整備を推進します。
- 個々の地域の特性やニーズ等を踏まえ、様々な交通手段を効率的に組み合わせた「魚の骨のような公共交通ネットワーク」の実現を目指します。
- 鉄道駅などの交通結節点において、円滑な乗り降りや乗り継ぎ等の環境を整備するとともに、分かりやすい案内情報の提供などのソフト施策にも取り組んでいきます。

理念3：関係者相互で連携し、公共交通を守り、育てる ”マイバス”，”マイレール”意識を醸成

- 公共交通の維持・充実、そして活性化を図っていくには、何よりも利用者である市民自らが積極的に公共交通を利用していくことが重要であり、そのために、市民一人一人がそれぞれ自ら考え、過度に自動車に依存しないライフスタイルへの転換を目指します。
- 市民、事業者、さらには行政等関係者が総力を結集して、魅力あるまちづくり、魅力ある公共交通の実現に向け取り組んでいきます。

3. 3 基本理念が実現されるイメージ

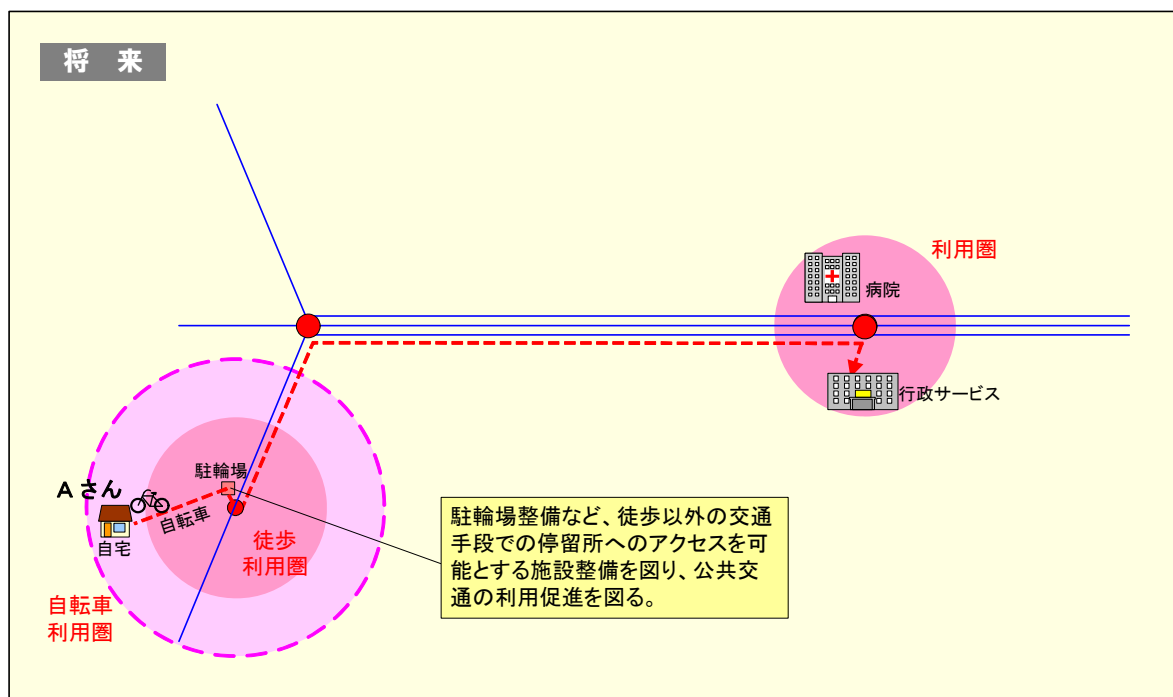
基本理念に基づいて、関係者が相互に連携して取り組みを進めていくと、次のようなイメージで持続性が高いまちの交通体系が構築されていきます。

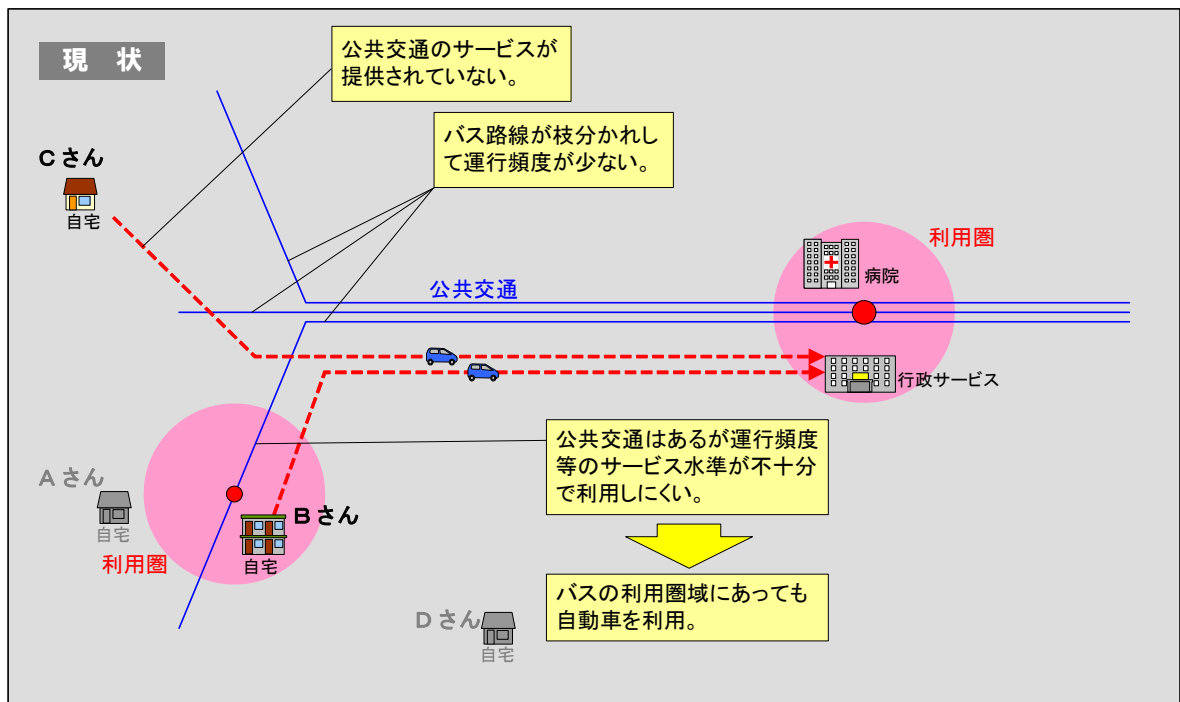


徒歩以外での交通手段でもアクセスしやすいように停留所に駐輪場を併設するなどの利便化策により、公共交通の利用圏域が拡大し、公共交通が利用しやすくなります。



【短期的改善イメージ】（Aさんの場合）

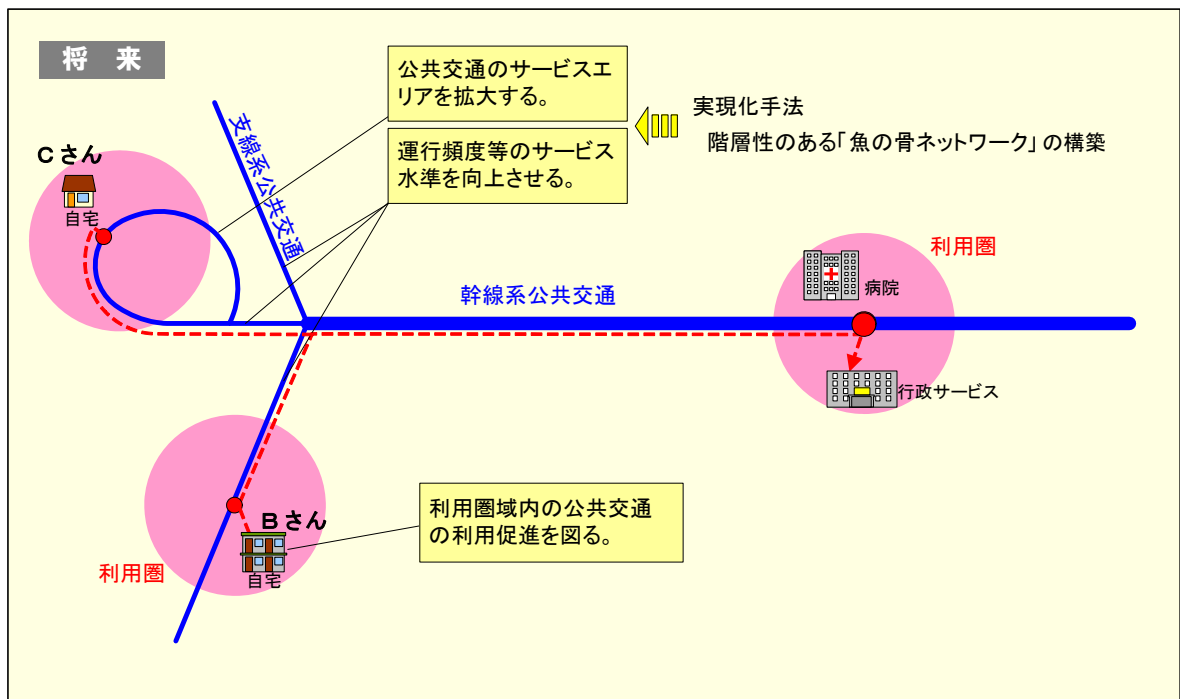


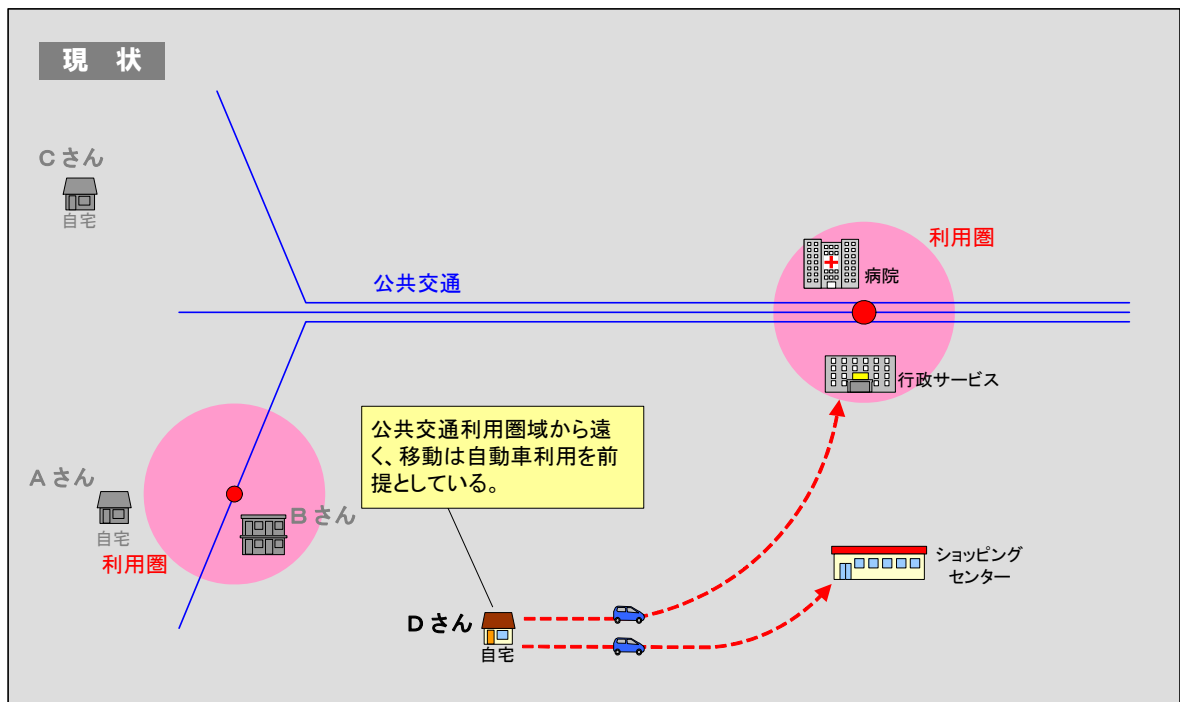


公共交通のサービスエリアや運行頻度等のサービスレベルが向上されることによって、公共交通が利用しやすくなります。



【中期的改善イメージ】（Bさん、Cさんの場合）





公共交通のサービス水準が向上することによって、居住地としての魅力が向上し、公共交通利用圏域内の居住者の増加が期待されます。このようにして公共交通の利用が促進されることによる都市の集積を図り、目標とする都市像である「ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指します。



【長期的改善イメージ】（Dさんの場合）

